取 扱 説 明 書

ＲＣ０４－ＫＳＧ

1．概　要

本器は標準信号発生器 ＫＳＧ ４１００ の専用リモートコントローラです。

本体のメモリーにストアされた情報の読み出しが主な目的で、搬送波周波数、出力レベル、変調レベル、変調のモード等は本体正面パネルより予め書き込み使用します。

カーソル・キー および ロータリー・ノブにより搬送波周波数、出力レベル、変調度、メモリー・アドレスを可変させることができます。

2．仕　様

○ 設 定 機 能	「 MEMORY 」の 10位桁 △ ▽ キー、1位桁 △ ▽ キー
	「 MODULATION 」の ON/OFF キー
	各表示をモデファイするロータリ・ノブ
	各表示ブロック内を移動する < > キー
	表示ブロック外に移動する <◁ ▷> キー
	(但し モデファイ時の表示は本体で確認する。)
	ロータリー・ノブの変化量を可変する RANGE ×4、×2、×1 キー
	ロータリー・ノブの機能を固定する LOCK キー
○ 表 示 機 能	「 MEMORY 」2桁 7セグメント
	「 MODULATION 」の ON/OFF
○ 外 形 寸 法	１８０Ｗ×４２Ｈ×１２０Ｄmm (筐体部)
	ケーブル 約 ２ m
○ 動作温度範囲	０～40℃

3．接続方法

本体の「 POWER SW 」を OFF にし、本器のケーブル先端のコネクタを本体背面の「 REMOTE 」コネクタに確実に接続し、「 POWER SW 」を ON にします。

その際、表示等が異常な場合「 POWER SW 」を入れ直して下さい。

4．操作方法

「 MEMORY 」の 10位桁 △ ▽ キー、１位桁 △ ▽ キーを押すと 各 メモリー・アドレスがそれぞれ 1ステップずつ増減します。

「 MEMORY 」の １位桁 △ ▽ キー 「 MODULATION 」の ON/OFF キーは本体パネル面のキーと同じ動作をします。

メモリー・アドレスの表示と「 MODULATION 」の ON/OFF 表示は本体と同じ状態になります。

メモリーの内容は本体で予め書き込みを行って下さい。(本体取扱説明書 ２６ページ 4.7.2項 参照)

ロータリー・ノブの操作の際に、カーソルを ◁ ▷ <◁ ▷> キーで移動させてモデファイします。RANGE ×4、×2、×1 を選択することによりロータリー・ノブを回した時の変化量を変えることができ ×4 が最も変化量が多くなります。LOCK キーを押すことによりロータリー・ノブを回してもデータ値は LOCK キーを押す直前のデータに固定されます。

注　意

「 MEMORY 」の10位桁表示が「 9 」のとき △ キーを押しても機能しません。同様に10位桁表示が「 0 」のとき ▽ キーを押しても機能しません。

'88.6.9

87586SA

菊水電子工業株式会社